

ねぎ (ユリ科)

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作	秋冬どり																				
型																			収穫：9月上旬～10月下旬		

ねぎは耐湿性の弱い野菜の一つに数えられ、保水性の適度な軽い土壌を好みます。

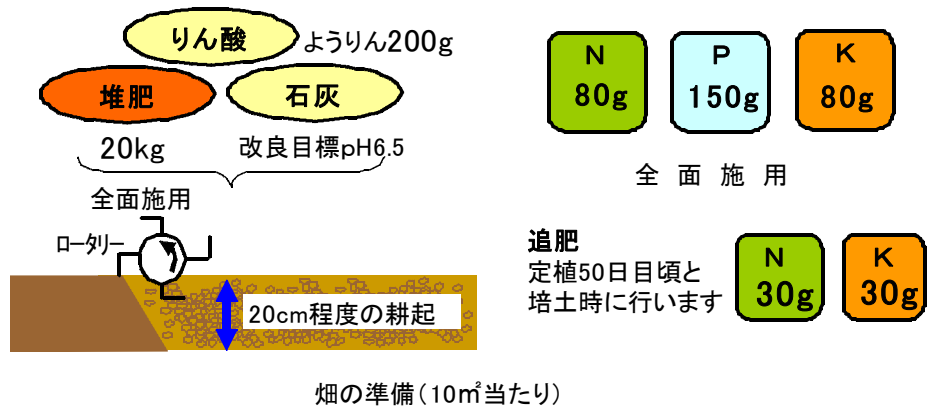
表1 主な品種

品種名	軟白部の		首のしまり	分けつ
	伸長の早さ	太さ		
金長3号	早	やや太	やや不良	やや少
冬扇3号	早	太	良	なし
元蔵	やや早	太	良	極少
白羽一本太	やや早	太	良	なし

1 栽培管理

①畑の準備

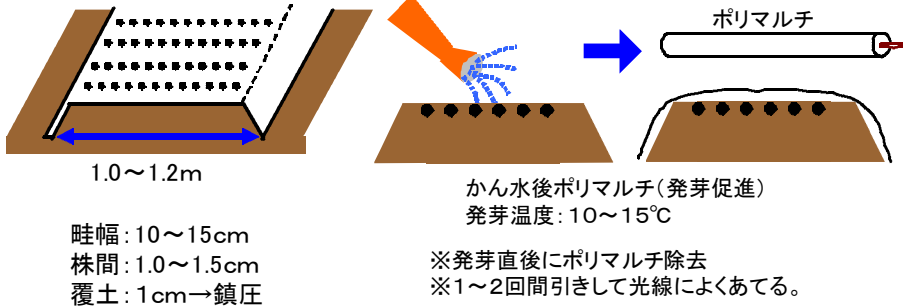
- ・ねぎはりん酸の肥効が高いので、堆肥、石灰に加えりん酸を施用します。
- ・基肥は定植の3～5日前に全面施肥し、土壌と十分に混和します。



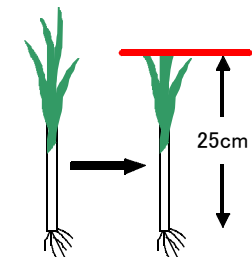
②育苗

- ・発芽温度は10～30℃(発芽の適温は10～15℃)。育苗中の温度管理は、日中は20℃前後を目途とし25℃以上にはしないように注意します。夜間は5℃以上を保ちます。
- ・手播きの場合はジュースの缶の底に釘などで1穴空けて利用すると比較的均一に播けます。
- ・水管理は育苗前半は過乾による苗の伸長抑制があるため、たっぷりとかん水します。育苗後半は水分を控えめにして丈夫な苗にします。

は種



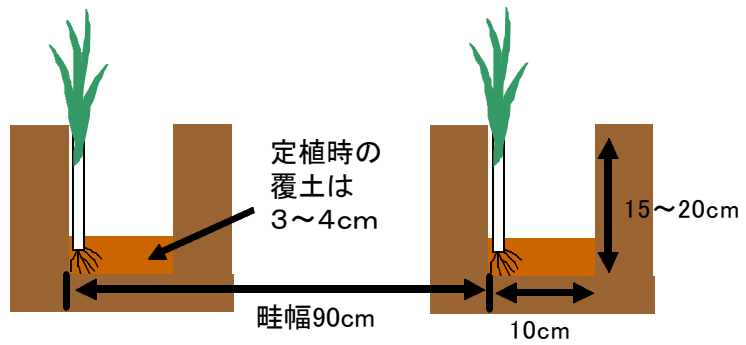
苗の目標(70日)	
草丈	25cm以上
茎径	3～4mm
葉数	3～4枚



葉切り(剪葉)
伸びすぎた苗は25cmで葉切りします。定植作業がしやすく、活着も促進されます。

③定植

- ねぎ類は通気性と保水性の良い土壌を好むので堆肥を十分に施用し、土づくりをしておくことが大切です。
- 植え溝の深さは20cm前後。露地栽培の場合は5～9cmのやや浅めに植えます。
- ながねぎはかん水効果が極めて高く、かん水によって生育が調節される作物です。培土後、晴天高温時に葉先が枯れるのは断根による干ばつ被害なので、培土後のかん水は特に高い効果があります。
- かん水は、原則として8月末までとします。晴天が続き、培土しても土が乾き過ぎて崩れるような時は、先にかん水をして土に湿気を与えてから培土すると良いです。
- ねぎに発生する病害虫はべと病、さび病、黒斑病、タマネギバエ、アザミウマ等があります。



白根曲がり防止のため垂直に植えます

<土(培土)による軟白方法>

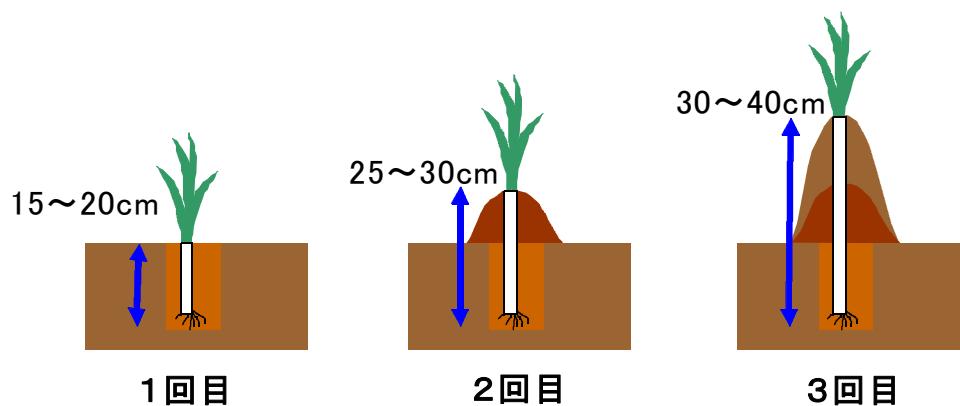
- ながねぎは好気性の作物なので、1回の培土量を多くすると生育の遅延を招きます。1～2回目を少なくして、3回目に軟白部分が目標に達するように培土を行います。
- 培土は早めに行うよりもむしろ遅めにした方が良く、ながねぎを十分生育させて葉鞘部が太くなったものを、培土で上へ上へ押し上げてやるような考え方で培土します。
- 最終培土後、へこんだ中央部分から光が入って軟白部と緑色部の境がボケルので、ながねぎの周りの土を押さえて隙間をなくします。

【培土の実施時期】

	培土の方法	ハウス栽培	露地栽培
1回目	溝が平らになるように培土する	定植後30日目ころ	定植後30～40日目ころ
2回目	葉の分岐点まで培土する	1回目後15日目ころ	1回目後30日目ころ
3回目	分岐点の上まで(盛土高さ20～30cm)培土し、仕上げ培土(目標軟白部長)とする。	2回目後15～20日目ころ	収穫予定の25～35日前ころ

2 収穫の目安

- 試し採りをして、十分に軟白しているか確認してから収穫します。
- 軟白の仕上がりの目安として、夏～初秋で18～20日、初秋～晩秋で20～25日を要します。



土(培土)による軟白方法